



リリースノート

テスト技術者資格制度 Advanced Level テストアナリストシラバス

Version v3.1.0

2020年10月23日、ISTQB®総会にて、「テスト技術者資格制度 Advanced Level テストアナリストシラバス (CTAL-TA)」の新バージョン v3.1.0 の開発について投票があり承認がされた。シラバスの2019年版のリリース後に関係者から提出された一連の変更要求をすぐに実装することが開発のゴールである。新バージョンは、変更の影響を抑えるためにできるだけ早く提供する必要がある。ISTQB®のCTAL-TAタスクフォースは、ISTQB®の開発プロセスに従って新バージョンを開発し、2021年3月3日にリリースした。

ISTQB® Accreditation Process, version 2.00 の3.6.1項に記載があるように、本バージョンは学習の目的の変更が5%以下であるため、マイナーアップデートとなる。今回の更新では、CTAL-TAには30の学習の目的のうちの1つ (TA-3.2.3) のみが影響を受ける。他の学習の目的に影響を与える変更要求は、次のメジャーアップデートに延期された。

マイナーアップデートの場合、トレーニングプロバイダーの再認定は必要ないが、認定機関は教材の変更部分を復活させ、シラバス変更に伴う調整が適切に行われていることを確認する必要がある。

シラバスの新バージョン v3.1.0 は、2021年3月2日のリリースから適用される。

現在、英語でCTAL-TAシラバスを提供しているすべてのISTQB®メンバーボードは、以下のことをしなければならない。

- 1) 英語のCTAL-TAシラバスの旧バージョン2019の使用をやめる。

2) リリース後 6 ヶ月以内に CTAL-TA シラバスの最新バージョン v3.1.0 を使用する。

現在、英語で CTAL-TA シラバスバージョン 2019 の試験を提供しているすべての ISTQB®メンバーボードは、リリースから 6 ヶ月以内にすべての試験問題を CTAL-TA シラバスバージョン v3.1.0 に確実に対応させなければならない。

現在、CTAL-TA シラバスバージョン 2019 を自国語で提供しているすべての ISTQB®メンバーボードは、以下のことをしなければならない。

- 1) 自国語へ翻訳した CTAL-TA シラバスの旧バージョン 2019 の利用をやめる。
- 2) CTAL-TA シラバスバージョン v3.1.0 の最新版／新版の翻訳を自国語で提供する。
- 3) リリース後 9 ヶ月以内に CTAL-TA シラバスバージョン v3.1.0 を使用する。

現在、自国語で CTAL-TA シラバスバージョン 2019 の試験を提供しているすべての ISTQB®メンバーボードは、発売日から 9 ヶ月以内に、すべての試験問題を CTAL-TA シラバスバージョン v3.1.0 に確実に対応させなければならない。

このルールによって、英語版ではリリース 6 ヶ月後から、非英語版ではリリース 9 ヶ月後から、全 ISTQB®メンバーボードでシラバスの旧バージョン 2019 に関する活動は行われなくなる。

リリース対象

1. 更新版の CTAL-TA シラバスバージョン v3.1.0
2. 2019 年版に関連する変更点を可視化した更新版の CTAL-TA シラバス v3.1.0
3. 更新版の CTAL-TA シラバス v3.1.0 用のサンプル試験問題と解答セット A v2.3
4. リリースノート (この文書)

変更内容

シラバスを利用するトレーニングプロバイダー、試験プロバイダー、メンバーボード、受講者は、以下の変更点を知る必要がある。以下に記載されていないテキストの変更を含むその他のすべての変更点は、変更点の追跡が可能な CTAL-TA シラバスのバージョンで確認できる。

- 1 章
 - 1.2 節 (ソフトウェア開発ライフサイクルにおけるテスト) : 表現を改善した。
 - 1.5 節 (テスト分析) : 活動を現在の CTFL のテストプロセスに合わせた。
- 2 章
 - キーワード : 「リスクレベル」を削除した。

- 2.3 節 (リスクアセスメント) : リスクスケールとリスクレベルの評価に関する最後の 2 つの段落の表現を変更した。
- 3 章
 - さまざまな表現を改善した。
 - 3.2.1 節 (同値分割法) :
 - 連続値と離散値の範囲について、あまり付加価値がないため削除した。
 - 学習の目的をよりよくカバーするため、1 つのパラメーターから複数のパラメーターへと議論を広げた。
 - 3.2.2 節 (境界値分析) : 例題を改善した。
 - 3.2.3 節 (デシジョンテーブルテスト) : セクションを全面的に書き直した。
 - 標準的な OMG-DMN 第 8 章に沿ったものとした。
 - 以下に関して重点的に記載した。
 - 制限指定 vs 拡張指定のデシジョンテーブル。
 - テスト条件 (ルール) とテストケースの区別。
 - 単純化したデシジョンテーブル (CTFL 更新時の申し送り事項)。
 - バージョン 2019 で紹介した個々の条件結果のカバレッジを削除した。
 - 3.2.4 節 (状態遷移テスト) :
 - N-switch のカバレッジをよりわかりやすく説明した。
 - 「誤ったガード条件」を欠陥の種類として追加した。
 - 3.2.7 節 (ユースケーステスト) : 現行の OMG-UML (バージョン 2.5.1) に詳細を合わせた。
- 4 章
 - さまざまな表現を改善した。
 - 4.2.3 節 (機能完全性テスト) : ハイレベルなビジネスケースをハイレベルなビジネスプロセスに変更した
 - 4.2.5 節 (ユーザビリティ評価) : 使用性の副特性の定義を、用語集への参照に置き換えた。
- 5 章
 - 5.2.1 節 (要件レビュー) : チェックリストに「各要件の優先順位」を追加した。
- 6 章
 - 細かな表現の改善をした。
- 7 章 参考文献 :

- 標準に[OMG-UML]と[OMG-DMN]を追加した。
- ISTQB®と IREB のドキュメントへの参照を更新した。
- Chow (1978)の N-Switch カバレッジに関するオリジナル論文を追加した。
- テスト設計に関する Forgács and Kovács (2019)の最新の書籍を追加した。
- 全般：
 - 以下の用語は、用語集と同等、または CTFL で使われる用語に置き換えた。
 - 「アジャイルプロジェクト」などのアジャイル関連の表現を「アジャイルソフトウェア開発」に置き換えた。
 - 品質特性の意味で使う場合はすべて、「適切性」を「機能適切性」に置き換えた。
 - 品質特性の意味で使う場合はすべて、「正確性」を「機能正確性」に置き換えた。
 - 「同値クラス」を「同値パーティション」に置き換えた。
 - 品質特性の意味で使う場合はすべて、「機能性」を「機能適合性」に置き換えた。
 - 「キーワード駆動自動化」を「キーワード駆動テスト」に置き換えた。
 - 「テストのレベル」を「テストレベル」に置き換えた。
 - 「テストカバレッジ」を「カバレッジ」に置き換えた。
 - 「テストの活動 (testing activities) 」を「テストの活動(test activities) 」に置き換えた。(JSTQB 注：日本語では、testing と test をどちらもテストと訳すので日本語としての変更はない)
 - 「テスト工数 (testing effort) 」を「test effort 」に置き換えた。(JSTQB 注：日本語では、testing と test をどちらもテストと訳すので日本語としての変更はない)

2021 年 3 月 3 日

Matthias Hamburg

Product Owner ISTQB® Advanced Level Test Analyst